

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(団体用)

I 基本事項

整理番号

642

事業名	果樹協会補助金		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	農業振興部	農林振興課		款	農林水産業費・6款
電話	0799 - 43 - 5025			項	農業費・1項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	目	農業振興費・3目	
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務		南あわじ市補助金交付規則		
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱		職 <u>食</u> づくり <u>夢あふれ</u> 働く場を生み出すまちづくり		
	まちづくりの目標		ふやさんか <u>食</u> づくりの担い手【農漁業】		
	施策目標		食づくりの源である豊穡の大地と海を守り、農業や漁業に携わる市民(若者、女性、元気な高齢者層など)を育てる		

II Plan&Do (計画・事業内容、団体内容、投入資源)

事務概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人を、構成員内訳)				
		南あわじ市果樹協会(市内の果樹栽培農家)				構成人数(人)
		50				
	実施内容	活動目的(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入)				
		果樹振興に関する必要な事業を行い、経営の合理化とその経営的地位の向上を図ることを目的としている。				
		(主な事業、活動内容等)				
	団体の概要	(どのような団体か、活動目的、活動内容など)				
研修会・試験栽培・先進地視察・苗木の斡旋						
事務局の所在 (直接事務執行部署)		<input checked="" type="checkbox"/> 補助団体	<input type="checkbox"/> 市役所	<input type="checkbox"/> 市単位 ()	<input type="checkbox"/> 旧町単位 ()	
補助金算出根拠	定額 2 5 0 千円					
	補助交付期間	<input type="checkbox"/> 平成	年度 ~	平成	年度 <input type="checkbox"/> 設定なし	
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯)					
	<input checked="" type="checkbox"/> 旧緑町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から					

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
資源配分 インプット	直接事務費 (千円)	250	250	250	220
	果樹協会補助金	250	250	250	220
	事務局事務費(市が事務局の場合)				
	財 源 (千円)				
	国				
	県				
	起債				
	その他				
	一般財源[A]	250	250	250	220
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	0	0	0
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1
	事業量1(事業に要した日数)				
	事業量2(事業に要した人数)				
	年間経費([A]+[B])	250	250	250	220
「構成人数」一人当り経費 (千円)	5.0	5.0	5.0	4.4	
受益者人数(50)一人当り経費(千円)	5.0	5.0	5.0	4.4	
経費に関する 補足説明					

Ⅲ Check (事業の自己評価・一次評価)

費用対効果	(費用対効果の分析、問題点・課題などを記入。) 栽培技術研修、先進地視察により、高品質な果樹を生産し、品種改良することで、果樹農家の活性化を図っている。	自己評価 (5点評価)
		4
必要性	公共性の高低 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低 (公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 緑支部(旧三原を含む)、西淡支部、南淡支部と市内広範囲で栽培されているが、栽培者の高齢化が急速に進んでいる中、果樹は、毎年の手入れが不可欠であるため、早急に後継者の育つ活力ある産地づくりを進める必要がある。	自己評価 (5点評価)
		4
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 栽培農家の生産意欲は、大であり、消費者のニーズにあった新品種に改良していき、栽培研修等も意欲的に参加している。	<div style="text-align: center;"> <p>評価グラフ</p> <p>費用対効果 必要性</p> </div>

IV Action&Plan (改善・改革の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input checked="" type="checkbox"/> 予算削減	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input checked="" type="checkbox"/> 予算削減
	農業改良普及センター等と連携し、品質の高い新品種の導入、高収入を目指した研修会等を行い、後継者の育つ環境整備を目指す。	同左
(現状維持以外の改善方法)	今後とも経費節減の上、継続して会の運営に努める。	同左
改善によって期待される効果	活動は継続しつつ予算節減となる。	同左
(現状維持の場合も記入)	仮に 補助金、交付金を廃止した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面) 上部団体として兵庫県果樹協会、淡路果樹協会があり、かんきつ大会研修会等活動しているため市の協会の活動が不可欠である。	